

りそな 経済フラッシュ (ECB <欧州中央銀行> 理事会)

◎注意事項をよくお読み下さい

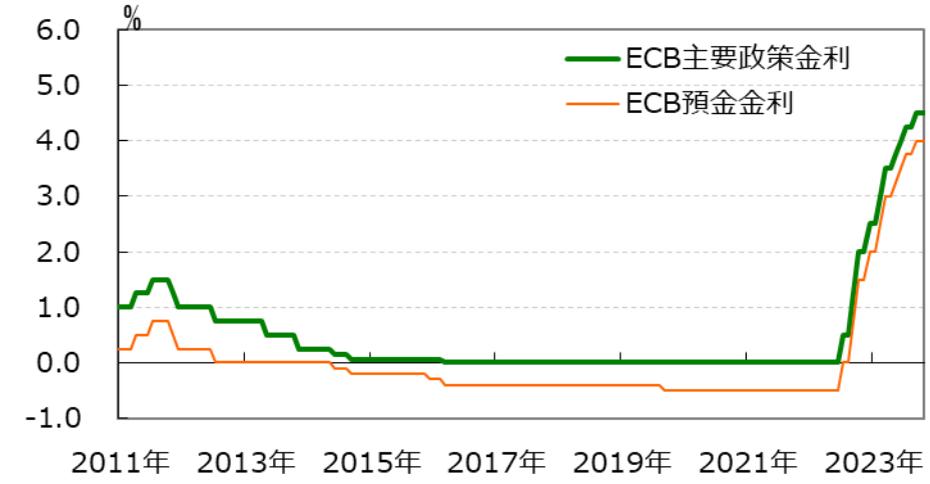


〇概況

- ◆ ECBは3/7の理事会で、4会合連続での政策金利据え置きを決定した(市場予想通り)
- ◆ 四半期に一度公表されるECBスタッフの経済見通しでは、2024年の成長率及びインフレ見通しが引き下げられた
- ◆ ラガルド総裁は会見にて6月の初回利下げの可能性を示唆

- ✓ 3月7日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では金利水準の据え置きを決定。中銀預金金利は4.00%、主要政策金利は4.50%、中銀貸出金利4.75%。市場予想通りの結果となった。資産買い入れの方針についても、特段変更はなかった。
- ✓ ECBは声明で、インフレについて「一段と低下」と評価。四半期に一度公表されるECBスタッフの経済見通しでは、インフレについてエネルギー価格の低下を背景に2024年、25年の見通しを引き下げた。また2024年の成長率については、これまでの引き締めの政策が波及しているとして下方修正した。金融政策の先行きについては、「金利をこの水準で十分に長く維持すれば、インフレ率を目標の2%まで戻すことに大きく貢献するだろう」とのガイダンスを維持した。
- ✓ ラガルド総裁は記者会見にて今回の理事会で、利下げについての議論は「なかった」としたが、現在の「引き締めのスタンスを緩めることについての議論を始めたばかり」だとした。またインフレは着実に低下しているとしつつも、自信を深めるにはより多くのデータが必要とし、「4月にはもう少し多くのことがわかるだろうが、6月にはもっと多くのことがわかるだろう」として、6月にも初回の利下げを行う可能性を示唆した。
- ✓ 市場では、事前のECB高官等の発言などからもともと6月利下げを見込む向きが多かったものの、ラガルド総裁の発言を受けて改めて4月の利下げの可能性が低下したことや、インフレや成長率の見通しが引き下げられたことがハト派的と捉えられ、独金利は低下した。一方、利下げに伴う先行きの景気回復期待を受けてユーロドルは上昇した。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（3月最新）】

	2024年	2025年	2026年
実質GDP成長率	+0.6	+1.5	+1.6
12月時点の見通し	+0.8	+1.5	+1.5
HICP（消費者物価）	+2.3	+2.0	+1.9
12月時点の見通し	+2.7	+2.1	+1.9

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。
 お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。